

シニア災害ボランティア シンポジウムin和歌山 開催報告



平成29年9月5日(火)、和歌山県立情報交流センターにて和歌山県と当協会主催による「シニア災害ボランティアシンポジウムin和歌山」が開催されました。

冒頭に主催者を代表して田中和歌山県生活部県民局長と当協会の棚橋常務理事が挨拶し、続いて認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事の栗田暢之氏による基調講演と3名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。

基調講演

13:40～14:40

災害とボランティア ～過去の災害現場から～

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

代表理事 栗田暢之氏



栗田 暢之 氏

阪神・淡路大震災でコーディネーターとして被災者支援にあたったことを契機に、ボランティア団体を設立。現在までに約40カ所の被災地で支援活動を行う一方、各種事業にも多く携わる。平成28年に設立した「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク」代表理事も務める。

基調講演では主に九州北部豪雨を取り上げ、現地での様々な活動を紹介しつつ、ボランティアニーズの変化やNPO法人の活動、ボランティアセンターの重要性、それに携わる地域の社会福祉協議会の役割等について講演いただきました。

パネルディスカッション

14:50～15:50

地域のボランティア力を高めよう！

コーディネーター

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

代表理事 栗田暢之氏

パネリスト

特定非営利活動法人日本防災士会理事

日本防災士会和歌山県支部長 早稲田眞廣氏

新宮市社会福祉協議会社会福祉協議会職員

奥田修子氏

男たちの読み聞かせサークル

「よみきかせオヤジの会」代表 中西哲也氏

パネルディスカッションでは、各パネリストの活動実態のほか、各人が、実際にボランティア活動の現場で直面した課題とその克服手法、

地域における活動の重要性などについて、

参考となるご意見をいただきました。



今後の災害ボランティアの在り方などを考えるうえで、日頃からの地域活動の重要性を改めて認識させられ、大変参考となるシンポジウムとなりました。